

2016 選択プログラム

午後のプログラムは選択制です。以下のプログラムから、第2希望までを選んでお申込みください。
なお、会場については、当日配布の資料でお確かめください。

1. 分科会講演「認知症、BPSD、介護拒否 ～その理解とケア（介護・看護・リハビリテーション）～」

【講師】「有吉病院」福本京子ケア部長

認知症、BPSD、徘徊、介護拒否…。専門職として携わっていてもわかっているようで、わかっていないことが多いのではないのでしょうか。認知症を抱える方々への「ケアの方法」について学ぶことは、認知症を抱えるその人にどうトータル（全人的）に支援者として向き合うか、という原点に戻ります。認知症という病気を抱えている方の生活世界や苦悩をどう受け止め、BPSD や介護拒否にどう向き合っていくか。現場で得られた知見（経験や知識）から学ぶことで、介護職・看護職・リハビリ職の実践力を身につけます。

2. 分科会講演「虐待防止・抑制廃止・不適切ケアの芽を摘む ～『鼻めがねという暴力』から～」

【講師】林田 俊弘（NPO ミニケアホームきみさんち理事長、（有）自在取締役社長）

利用者の尊厳を考えると、身体拘束と双壁をなす問題として常に現れる「施設内虐待」の問題。施設における虐待は、どのような職員によって、どのような利用者に、どんな時に、起こってしまうのでしょうか。虐待事例や虐待未遂の事例を解きほぐしながら、どこからが虐待なのか、どうしたら虐待を防ぐことができるのかまで議論していきます。虐待の芽となる不適切ケアについて意識化を図り、各施設での虐待防止のための礎（いしずえ）を考える機会とします。施設における虐待を防止するために、その芽となる不適切ケアを明らかにしていきます。

3. 分科会講演「高齢者サービスにおけるコミュニケーション・接遇を 振り返る ～スピーチロックに気づく～」

【講師】本多 勇（武蔵野大学通信教育部教授、介護老人保健施設太郎支援相談員（東京都））

近年、あらゆる分野で接遇が注目されています。高齢者ケアの領域も、間違いなく接遇が求められます。ただし、一般の接遇とは異なり、私たちの利用者は、介護・看護や支援を必要とされる方々です。利用者や家族の皆様が心を開いて介護サービスを気持ちよく受けてくださるために、私たち専門職は、どのように利用者・家族に接すればよいのでしょうか。受講者の皆さんと共に再確認し、接し方について実際に身につけていただくことはもちろん、現場に戻り、ほかのスタッフにそのエッセンスを伝えられるような接遇研修の場としたいと思います。あわせて、ケアの現場で課題にあがるスピーチロックにも注目したいと思います。

4. ワークショップ「介護現場のトリアージ」

夜勤時間帯など、スタッフ配置の少ない時間帯に、同時にナースコールが鳴ってしまい、対応に苦慮されたことはありませんか。食事の終了時に転倒リスクの高い利用者が同時に立ち上がろうとして焦ったことはないでしょうか。

どちらの方が事故のリスクが高いのか、ケアや介護の必要性が高いか、そのことを瞬時に判断してサポートに入るのは、まさに「介護現場のトリアージ」です。同時多発的に起きる事故リスクの乗り切り方、ケアの優先度のアセスメントとケア方法についてのチームでの共有の仕方について、グループワークにより知見や知識を深めていきます。

5. ワークショップ「抑制廃止を実現させるためのトップの役割 ～チームのケア力・組織で取り組む1～」

施設内のスタッフに身体拘束廃止や提供するケアの質に対する温度差があり、思うように抑制廃止が進まないということは往々にしてあります。どのようにしたら施設・事業所全体で、ケアの理念や施設・事業所の方針を共有し、質の高いケアを提供することができるのでしょうか。またそれを実現・維持するための、トップの役割とはどのようなものなのでしょうか。その実現のための方法論、施設運営・経営の戦略、組織論を含めてディスカッションしてみたいと思います。

施設トップ＝管理者（施設長、所長、サービス提供責任者、マネージャー）の皆さまにノウハウや経験、悩みを持ち寄っていただき、解決策を共に考える場として活用していただきます。

（※本ワークショップは、管理者の方々の参加を想定しています）

6. ワークショップ「ケアの質をチームで高めるには ～チームのケア力・組織で取り組む2～」

ケアの質は高齢者施設の要（かなめ）です。ひとりの突出した技術を持つ職員がいても、24時間365日勤務できるわけではありません。そうすると、ケアの質はその技術の横展開に掛ってきます。チームアプローチでケアを提供する施設・事業所において、「ケアプランの共有」、「技術の伝達」、「ケアの目的の共有」、「ケアへの意識の向上」、「リーダーシップ」、「委員会活動（抑制廃止委員会等）の活動と実践」など、ケアの質の向上につながる様々な実践のヒントがあります。チームケアのレベルアップのための手段を各自持ち寄って議論してみたいと思います。それぞれの施設で取られているアイデアやシステムを共有して、自施設のケアの質のレベルアップへの一助となるようなワークショップを行います。

（※本ワークショップは、現場スタッフの方々の参加を想定しています）